

### 3. 23 「清流をまもる 未来をまもる」集会宣言（案）

私たちは、川棚町川原（こうばる）で長崎県と佐世保市が進めている「石木ダム事業」が、本当に地元や県民のためになるのか疑問を持っています。

今日の集会では、治水、ダム、魚類の専門家 3 人の講演を聴いて、「石木ダム事業」への疑問は一層深まりました。さらに、各議員や佐世保市民の声からも治水、利水の効果が希薄で、むしろ住民の生命と安全を脅かすのではないかと危惧します。

この事業は川原（こうばる）の自然環境のみならず、ここで生まれて現在に至るまで営まれてきた人々の暮らしを、またこれからの人生を根底から奪うものです。そして、美しく貴重な「ほたるの里」を消滅させようとしています。シーボルトも収集したと思われる石木川に生息する淡水魚など、自然や貴重な生態系が無くなるのを、一市民として黙って見過ごすことはできません。未来の子ども達のためにも、石木川の自然を貴重な財産として残すことが、今を生きる私たちの責務です。

「石木ダム事業」に疑問を持ってきた私たちは、これまで長崎県知事や佐世保市長に対し、公開討論会等を通じて、改めて「石木ダム事業」の是非について協議することを求めてきました。しかし、知事も市長も、私たちの真摯な疑問に背を向け、事業推進を前提にした話し合いしか行わない姿勢を押し通しています。

「石木ダム事業」は、地権者らの生命、財産、人権を侵害し、国、県、市財政が逼迫した状況下で、佐世保市民、長崎県民、更には全国民に無用の財政負担を強いることとなります。すでに当初の工事関連予算を大幅に超えるのは明らかです。

このような、未来に責任を感じない長崎県や佐世保市の姿勢が、若者の県外流出に拍車をかけているのではないのでしょうか。求められているのは希望を感じることのできる県政です。現実を受け止め、未来を見据え、不要な事業は中止する。その結果、教育や子育て等の必要な予算を増やしていく、そんな県政を私たちは願っています。

その願いを実現するためにも、私たちは、これからも石木ダム事業の見直しを求め続けることを宣言します。

2024年3月23日

「清流をまもる 未来をまもる」集会 参加者一同